SHIROUSAGI

しろうさぎ

vol.35
2014.1.1
島根大学
SHIMANE UNIVERSITY

目次

年頭のごあいさつ 2014　病院長　井川 幹夫

特集　病診連携

- 地域医療連携センターの取組み
  患者さんの思いを尊重した円滑な治療体制
- まめネットの運用　より良い地域医療のために

- 病院探検隊！ ～クリニカルスキルアップセンター編～
- 病気のまめ知識 ～肺炎のおはなし～
- 私のここだけの話
- イベントなどのお知らせ
- ニュース&トピックス

2014 年頭のごあいさつ

病院長　井川（いがわ） 幹夫（みきお）

あけましておめでとうございます。今年も標準的な医療から高度な医療まで大学病院が提供すべき最善の医療を提供してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

昨年、出雲大社の大遷宮に伴う御修造が行われましたが、当院も病院の大改修を終え、患者さんの療養環境の改善を行うことができました。さらに昨年10月からスタートした小児心臓外科手術は、順調に手術症例を重ね、ロボット手術支援システム「ダ・ヴィンチ」による前立腺がんに対する前立腺全摘の症例集積も順調に進んでいます。先進医療を目指して、膀胱がんに対する膀胱全摘、腸管を利用した新膀胱造設術、腎がんに対する腎部分切除術も実施しており、婦人科、消化器外科領域にも適応を拡大する予定です。今後数年かけて画像診断装置から手術器械等まで計画的に医療機器の整備を行って、医療提供水準の維持・向上を図ります。患者さんのアメニティ改善では、病院玄関にコンシェルジュを配置して、受診患者さんのサポートを行い、外来診療の待ち時間短縮、今年4月から集中治療室、救命救急センターで治療を受けられている患者さんのご家族用に広い待合室を確保いたします。

本年も、患者さん・ご家族のご意見をお聞きしながら、患者さん中心の医療を提供し、地域で愛される病院ナンバーワンを目指して、病院職員とともに努力してまいります。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

表紙の写真について…

表紙の写真は、退院前カンファレンス（退院時共同指導）の様子を撮影したものです。ここでは、患者さんが退院後にご自宅に戻られてからも適切な治療を継続して受けられるように、かかりつけ医と当院のスタッフが、患者さんやご家族と一緒になって容態や治療などの情報を共有しています。

患者さんの思いを尊重した円滑な治療体制

地域医療連携センターの取組み

地域医療連携センター スタッフ

医療支援係員
奥村香織（おくむら かおり）さん

医療ソーシャルワーカー
太田桂子（おおた けいこ）さん

退院調整看護師
澤田範子（さわだ のりこ）さん

当院の地域医療連携センターでは、患者さんのかかりつけ医と当院とを繋ぐ「病診連携」をスムーズに行うことで、患者さんに迅速で適切な治療を受けていただく取組みを行っています。今回は3名のスタッフの方にインタビューしました。

Q 「病診連携」に関して、主にどのような取組みをされていますか?

A 患者さんがかかりつけ医からの紹介で当院を受診されるまでを支援する「前方支援」と、当院での受診後・退院後にかかりつけ医に戻られてからも継続して支援する「後方支援」を行っています。

「前方支援」について、当院を受診するまでの主な流れは次の通りです。
①患者さんがかかりつけ医を受診（※）
②かかりつけ医から当院に受診予約のFAX送信
③当院からかかりつけ医に予約完了のFAX返信
④患者さんがかかりつけ医からの紹介状を当院に持参して受診
患者さんはかかりつけ医に居ながら当院での受診予約が可能です。また、昨年秋よりFAXの様式を変更して症状などをより詳しく記載して頂いています。これにより、当院での診療にかかる事前準備が早くなり、さらに円滑な治療が可能となりました。かかりつけ医は当センターのホームページから予約手続きをすることも出来ます。

「後方支援」については、入院治療が終わって、退院後の療養生活が安心して過ごせるように調整しています。患者さんご本人やご家族と一緒に、かかりつけ医や当院の担当医・看護師・ソーシャルワーカー・リハビリテーションスタッフ・管理栄養士などが患者さんの容態や治療について情報を共有し、患者さんがご自宅に戻られてからも適切かつ切れ目のない治療ができるような話し合いの場「退院前カンファレンス（退院時共同指導）」を開いています。

Q 患者さんへメッセージをお願いします。

A 患者さんのご希望を丁寧に聴くように心がけておりますので、どのように治療を受けたいかなどのご要望を私たちにお伝えくださいますようお願いいたします。

お問い合わせ先：地域医療連携センター
0853-20-2193

（取材：総務課広報担当）

（※）かかりつけ医を介さずに当院に直接来院される場合は、別途3,150円（H26年1月現在）が必要となります。

まめネットの運用

より良い地域医療のために

「まめネット」同意カードを持つ花田英輔（はなだ えいすけ）准教授

現在、NPO法人しまね医療情報ネットワーク協会が中心となって「まめネット」の整備が進められています。まめネット同意のメリットなどについて、同協会の理事であり当院地域医療連携センター副センター長の花田英輔准教授にお話を伺いました。

Q 「まめネット」とはどのようなものでしょうか?

A まめネットとは、患者さんの医療情報を、島根県内でまめネットを運用している医療機関同士で共有する医療情報ネットワークシステムのことです。共有する患者さんの情報は、あくまでも「まめネットに同意いただいた患者さん」の情報に限ります。同意いただいた患者さんには、図1のオレンジ色の同意カードが交付されます。

これまで複数の医療機関に分散されていた患者さんの医療情報を共有することで、各医療機関は患者さんの病歴や受診歴などの最新の状況を迅速かつ正確に把握できるようになります。共有する患者さんの情報は「連携カルテ」と呼びます。連携カルテを利用する医療機関には図2のステッカーが貼ってあります。その医療機関がまめネットを運用しているかを知る手がかりにもなります。

Q 同意する患者さんにはどのようなメリットがありますか?

A 医療機関同士で患者さんの情報が共有されるため、病状に対して適切な治療を適切な医療機関でスピーディーに受診していただくことが可能になります。まずは「かかりつけ医」で受診していただき、その後、病状に応じてより高度な医療を提供する医療機関にかかることで、各医療機関が得意とする治療法を、その治療を必要とする患者さんに最大限発揮することが出来ます。また、遠方の医療機関に通院するご負担を軽減することにもつながります。

当院では平成26年1月よりまめネットの運用を開始いたします。同意は医療サービス課窓口で受け付けます。連携カルテの情報は医療機関同士のみで使用いたしますので、安心して同意手続きを進めてくださいますよう、お願いいたします。

（取材：総務課広報担当）

図1 まめネット同意カード

図2 連携カルテを利用する医療機関を示すステッカー

まめネットの詳細情報については、NPO法人しまね医療情報ネットワーク協会のHP上で見ることができます。
▶▶▶▶http://www.shimane-inet.jp/

病院探検隊!

クリニカルスキルアップセンター編

「病院探検隊!」は、普段なかなか見る機会の少ない病院内の施設に一般の方をご案内して、医療機器や医療器具などを間近で見たり操作したりしていただく企画です。

今回は、医療従事者や学生が医療技術を磨く施設「クリニカルスキルアップセンター」に5名の方をお連れしました。案内役は田下博(たしたひろし)看護師です。

聴診器で呼吸の音を確認中

人形には約70症例の呼吸音が内蔵されており、接続されているPCの画面上で症例の解説やレントゲン写真を見ることも出来ます。

腕の模型で採血に挑戦

腕の模型は、触り心地も本物そっくりです。腕内を循環している赤い液体を実際の注射針で採取します。

蘇生訓練室にて

写真中央の人形は実際に酸素で呼吸をします。また、血圧を下げる薬を入れると血圧値が下がったり、電気ショックを加えると人形が跳ね上がったりします。

まばたきや咳をする人形

この人形は病室をそのまま再現した部屋に設置してあり、患者さんの容態が急変した場合などの対処法を学べます。写真奥のモニターには脈拍数や心拍数などが表示されています。

ご参加いただいた方より

とにかく「すごい」の一言でした。様々な疾患をもった人体模型の精密さや、日本の大学病院に数台しかない機器があるなどの設備の充実さにびっくりいたしました。このような環境の中で教育を受けられる学生さん、またスキルアップに取り組まれる病院スタッフの皆さんに地域医療の充実を期待しています。

また、聴診器の使い方、模型を使った採血の実践など貴重な経験ができ、医療従事者の皆さんの大変さがよく理解できました。ありがとうございました。

病気の まめ 知識

呼吸器・
化学療法内科科長
いそべ たけし
礒部 威

肺炎のおはなし

現在日本人の死因の第3位を占める疾患が肺炎です。肺炎にかかりやすくなる要因には、加齢、慢性の呼吸器疾患(COPD：慢性閉塞性肺疾患)、風邪やインフルエンザへの罹患などがあります。また、長時間寒気に曝される、年末年始の疲労など、特に冬場には肺炎に罹りやすい条件が揃うので、各自注意が必要です。肺炎の予防には、規則正しい生活、外出後のうがい、手洗いに加えて、インフルエンザワクチン(毎年接種)が重要です。ところで、肺炎を起こす細菌の中で最も多いのが肺炎球菌ですが、肺炎球菌ワクチンによって予防することが可能です。70歳以上で糖尿病やCOPDなどの病気がある人は5年に1度の接種で済みますのでお勧めします。出雲市ではワクチン接種の助成を行っていますので対象の方はご利用ください(詳細はかかりつけ医または出雲市役所にお問い合わせください)。また、起床時の歯磨き(食後ではなく、起きてすぐの歯磨き)もインフルエンザ予防に役立ちますので一家で励行してください。

みなさん、肺を大切に！

私のここだけの話

副病院長(改革担当) きのした よしかず 木下 芳一

私の趣味は魚釣りです。釣りを始めて半年ぐらいたった時に十六島(うっぷるい)の海苔の棚にカサゴ釣りに行きました。棚は平たいので普通の長靴をはいて釣りをしていたら海水に濡れた岩の上で滑って転び、頭をぶつけ、水たまりに落ちてビチャビチャになりました。通りかかった白髪のおじさんが、釣り竿を抱えてずぶぬれで頭をさすっている私を見て「どうしたんですか？　木下先生!」と声をかけてきました。「この人だれだろう?どうして私のことを知っているんだ?どうしたって様子を見たらわかるだろう!」と思っていると、「私が誰かわかりますか?」と聞いてこられました。「患者さんですか?」と答えると「何を言ってるんですか、H病院の事務長で先生の部屋に何度も行きましたよ!」と叱られました。仕事でよくお会いする事務長さんに、びしょぬれで釣り竿を抱えて出会い、大変恥ずかしい思いをしました。この事件から①滑らないように見えても岩場は滑るものとして万全を期して磯靴をはく、②人は服装によって印象が大きく変わる、という大切な2つの教訓を得ました。

イベントなどのお知らせ

島大病院「ちょっと気になる健康講座」を開催中！

当院では、来院される患者さんや一般市民の方向けに、健康や医療に関するミニ講座を開催しています。
毎週木曜日11時～11時30分の間、玄関待合ホールで行っていますので、気軽にお立ち寄りください。

回数	月　日	担　当	講　師	テーマ
第11回	1月23日(木)	皮膚科	新原寛之	足のむくみ・痛みは静脈瘤かもしれません！
第12回	1月30日(木)	栄養治療室	平井順子	肥満と食事
第13回	2月 6日(木)	リハビリテーション部	蓼沼　拓	もしも脳梗塞になったら…
第14回	2月13日(木)	歯科口腔外科	辰巳香澄	ご存知ですか?お口の病気
第15回	2月20日(木)	放射線部	福庭栄治	放射線検査被ばくについて
第16回	2月27日(木)	眼科	佐野一矢	かすみ目と飛蚊症
第17回	3月 6日(木)	整形外科	内尾祐司	まけないでロコモティブシンドローム
第18回	3月13日(木)	小児科	鬼形和道	子どもの病気 耳より情報 ～そこを見るのか!～
第19回	3月20日(木)	生命科学講座健康スポーツ科学	木原勇夫	貯筋運動
第20回	3月27日(木)	肝臓内科	飛田博史	肥満と肝臓病のちょっと気になる関係

病院ボランティアコンサート 開催予定

1月22日(水)19時より

ピアノ演奏 三原さん・クラリネット演奏 細木さんによる「病院ニューイヤーコンサート」

2月4日(火)19時より

大社リコーダー倶楽部のみなさんによる「暖暖(だんだん)コンサート」

※3月は開催予定がありません。

開催場所：玄関待合ホール

いきいき健康講座「まめなかくらぶ」放映予定(出雲ケーブルビジョン)

1月放送	医療情報部　花田 英輔　准教授 「よりよい地域医療連携のために～まめネット～」
2月放送	栄養治療室　平井　順子 室長 「栄養治療室の食への取り組み」
3月放送	総合医療学講座　石橋　豊 教授 「地域医療の力持ち：総合医を育てよう」

第３回「世界糖尿病デー」花火大会を開催しました。

今年も11月14日「世界糖尿病デー」に約250発の打ち上げ花火をあげました!糖尿病について沢山の方に知ってもらいたいという気持ちを込めて、糖尿病患者さんと医療者で企画し、募金を集めて行いました。今年は院内に糖尿病ケアサポート委員会もでき、チーム一丸となり色々な事に挑戦していきます。楽しみにしていてください!

内分泌代謝内科　守田美和（もりたみわ）

総務課より

塩冶小学校で大谷医学部長が講演を行いました。

12月9日に大谷浩（おおたにひろき）医学部長が塩冶小学校の5年生児童に「島根大学医学部と附属病院ってなにするところ?」と題して講演を行いました。大学病院の特徴（医師・看護師の育成、高度な医療の提供、未知の医療の究明等）や島根県医療の現状（医師・看護師の不足、地域医療の偏在、医師の高齢化・跡継ぎ問題等）について、児童のみなさんは熱心に耳を傾けていました。最後に、大谷医学部長から児童のみなさんへ「疑問に思うことは先生に積極的に質問しましょう。」とメッセージが送られました。

医療サービス課より

外来患者さんのお呼び出し方法が変わりました。
～「受付番号」でお呼び出ししています～

12月9日から実施している外来患者さんの番号呼び出しについては、患者さんのプライバシー保護を目的としています。当日の受付番号を診察室及び検査室からの呼び出し、総合待合での呼び出し、料金計算完了時の番号掲示、院外処方箋FAXコーナーでの呼び出し等に使用します。複数の診療科等の受診・検査等に際しましても、当日はすべて同一の受付番号となります。但し、一部の診療科等、及び診療等の状況によりお名前でお呼び出しをする場合があります。ご理解とご協力をお願いいたします。

◀「受付番号片」は、お帰りになるまで必要となりますので、紛失にご注意ください。

看護師募集

インターンシップ
病院見学会へ
来てみてね!

教育指導体制が充実した環境で
自分らしくいきいきと働くことができます。

●インターンシップ ●奨学金制度 ●採用試験
について詳しくは

看護部ホームページをご覧ください。

島根大学医学部　検索

お電話でのお問い合わせ　看護部 TEL **0853-20-2478**

編集後記

新年あけましておめでとうございます。島根大学病院広報誌「しろうさぎ」は、患者さんや地域住民の方々に当院の魅力を少しでも多くお届けしたいという思いで作成しております。「このような特集・企画を載せてほしい」などのご要望がございましたら、下記までご連絡ください。
次号の発刊予定は4月です。お楽しみに。

しろうさぎについてのお問い合わせ先

医学部総務課　企画調査係　広報担当
TEL：0853-20-2018
E-mail：mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp